

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年2月5日

上場会社名 株式会社 タクミナ

上場取引所 大

コード番号 6322 URL <http://www.tacmina.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山田信彦

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 吉田裕

TEL 06-6208-3971

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	4,091	△19.9	△37	—	△13	—	△10	—
21年3月期第3四半期	5,106	—	246	—	243	—	119	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△1.74	—
21年3月期第3四半期	19.32	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	6,671	3,513	52.6	566.48
21年3月期	6,886	3,620	52.5	584.30

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 3,507百万円 21年3月期 3,618百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期(予想)				12.00	12.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,900	△12.3	0	△100.0	0	△100.0	0	△100.0	0.00

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
 ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	6,440,450株	21年3月期	6,440,450株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	247,983株	21年3月期	247,983株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第3四半期	6,192,467株	21年3月期第3四半期	6,192,473株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は添付資料の4ページを参照してください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間のわが国経済は、一部で輸出の増加や政府の景気対策による生産の回復が見られましたが、前期後半からの世界的な景気後退の影響は根強く、全体としては厳しさが継続しています。

このような状況のもと、当社を取り巻く受注環境も最悪期は脱したものの、依然として製造業の設備投資に回復が見られず、当社の製品需要も低迷いたしました。

主力の定量ポンプ部門は、重点商品の「スムーズフロー」はポンプ単品、装置ともに健闘しましたが、ベースとなる汎用ポンプ類が空調・ボイラー向けを中心に幅広い分野で低迷しております。ケミカル移送ポンプ部門は、鉄鋼、非鉄分野向けに高耐蝕ポンプ「ムンシュポンプ」が減少しました。また、計測器・装置部門も、食品分野向け弱酸性次亜水生成装置「サラファイン」が売上に貢献しましたが、大口の装置物件の受注が乏しく減収となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は40億91百万円（前年同期比19.9%減）と減収となりました。利益面におきましては、経費の削減に努めましたが、売上高減少による影響が大きく全体の利益は大幅に落ち込み、営業損失37百万円（前年同期246百万円の利益）、経常損失13百万円（前年同期243百万円の利益）、四半期純損失10百万円（前年同期119百万円の利益）となりました。

このような厳しい環境下ながら伸長分野である太陽電池や二次電池等の新エネルギーの製造プロセス向けに、高精度ダイヤフラムポンプ「スムーズフローポンプ」を浸透させるべく、多目的ショールーム「タクトスペース」や移動式研修施設「ポンプ道場」による認知活動を進めております。また、5月にドイツの化学プラントショー「アヘマ」、6月には東京での「FOOMA（国際食品工業展）」に出展、スムーズフローポンプはもちろん、小型弱酸性次亜水生成装置「サラファインS」など今後の業績につながる製品のアピールを行なっております。

品目別販売状況は次のとおりであります。

【品目別販売実績】

期 別 部 門	前第3四半期累計期間 (自 平成20年 4月 1 日 至 平成20年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自 平成21年 4月 1 日 至 平成21年12月31日)		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
		%		%		%
定 量 ポ ン プ 部 門	2,386	46.7	1,960	47.9	△ 426	△ 17.9
ケミカル移送ポンプ部門	493	9.7	338	8.3	△ 155	△ 31.4
計 測 機 器 ・ 装 置 部 門	1,068	20.9	867	21.2	△ 200	△ 18.8
流 体 機 器 部 門	506	9.9	357	8.7	△ 149	△ 29.4
ケミカルタンク部門	403	7.9	351	8.6	△ 51	△ 12.9
そ の 他	247	4.9	215	5.3	△ 32	△ 13.0
合 計	5,106	100.0	4,091	100.0	△ 1,015	△ 19.9

2. 財政状態に関する定性的情報

(財政状態の変動状況)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて2億14百万円減少し、66億71百万円となりました。

流動資産は3億2百万円減少し、38億69百万円となりました。主な減少内訳は、現金及び預金の減少48百万円、受取手形及び売掛金の減少3億13百万円等であります。

固定資産は87百万円増加し、28億1百万円となりました。主な増加内訳は、投資有価証券の増加96百万円であります。

負債は、前事業年度末に比べて1億7百万円減少し、31億57百万円になりました。流動負債は64百万円増加し、20億73百万円となりました。主な増減内訳は、長短振替による短期借入金の増加2億4百万円及び支払手形及び買掛金の減少1億40百万円等であります。

固定負債は1億72百万円減少し、10億84百万円となりました。主な減少内訳は長短振替による長期借入金の減少1億85百万円であります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べて1億6百万円減少し、35億13百万円となりました。主な減少内訳は、剰余金の配当92百万円による利益剰余金の減少であります。また、自己資本比率は0.1%上昇し52.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前事業年度末に比べて98百万円減少し(前年同期は1億2百万円の減少)、6億10百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1億72百万円の収入となりました。これは主に、減価償却費1億16百万円、売上債権の減少3億13百万円等による資金の増加及び賞与引当金の減少90百万円、仕入債務の減少1億40百万円、法人税等の納付54百万円等による資金の減少によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億97百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得57百万円及び無形固定資産の取得33百万円、投資有価証券の取得1億48百万円等による支出等及び投資有価証券の売却による49百万円の収入等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、74百万円の支出となりました。これは主に、長短借入金の増加19百万円と配当金の支払93百万円による支出等によるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成21年8月5日に公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

棚卸資産の評価方法…… 実地棚卸を省略し第2四半期会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出しております。また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

税金費用の計算…… 当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	735,232	783,761
受取手形及び売掛金	2,325,815	2,639,518
商品及び製品	83,604	72,091
仕掛品	663	2,678
原材料及び貯蔵品	554,198	560,937
その他	172,708	115,674
貸倒引当金	△2,507	△2,874
流動資産合計	3,869,716	4,171,788
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	500,022	538,468
機械及び装置(純額)	76,281	86,594
土地	609,524	609,524
その他(純額)	176,208	129,832
有形固定資産合計	1,362,037	1,364,420
無形固定資産	73,044	40,000
投資その他の資産		
投資有価証券	722,079	625,990
関係会社株式	3,000	3,000
その他	644,408	683,680
貸倒引当金	△2,737	△2,854
投資その他の資産合計	1,366,749	1,309,817
固定資産合計	2,801,831	2,714,237
資産合計	6,671,547	6,886,026
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,160,318	1,300,896
短期借入金	570,000	366,000
未払法人税等	—	7,643
賞与引当金	76,000	166,074
その他	267,172	168,286
流動負債合計	2,073,491	2,008,901
固定負債		
長期借入金	130,000	315,000
再評価に係る繰延税金負債	43,024	43,024
退職給付引当金	704,534	698,905
役員退職慰労引当金	206,934	199,647
固定負債合計	1,084,493	1,256,578
負債合計	3,157,984	3,265,479

(単位:千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	892,998	892,998
資本剰余金	731,659	731,659
利益剰余金	1,977,956	2,081,603
自己株式	△123,809	△123,809
株主資本合計	3,478,804	3,582,451
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	24,056	29,334
繰延ヘッジ損益	328	1,777
土地再評価差額金	4,724	4,724
評価・換算差額等合計	29,109	35,836
新株予約権	5,648	2,259
純資産合計	3,513,562	3,620,547
負債純資産合計	6,671,547	6,886,026

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	5,106,194	4,091,185
売上原価	3,124,369	2,561,671
売上総利益	1,981,825	1,529,514
販売費及び一般管理費	1,735,662	1,567,290
営業利益又は営業損失(△)	246,162	△37,776
営業外収益		
受取利息	6,612	7,867
受取配当金	8,421	6,045
投資有価証券売却益	2,677	2,376
投資有価証券評価益	—	5,315
為替差益	—	2,794
助成金収入	—	9,882
その他	3,753	3,426
営業外収益合計	21,464	37,707
営業外費用		
支払利息	8,478	8,165
売上割引	3,339	2,656
為替差損	10,366	—
その他	2,333	2,565
営業外費用合計	24,516	13,388
経常利益又は経常損失(△)	243,110	△13,457
特別利益		
貸倒引当金戻入額	272	482
特別利益合計	272	482
特別損失		
固定資産除売却損	7,869	276
投資有価証券評価損	3,721	—
会員権評価損	—	990
本社移転費用	24,659	—
特別損失合計	36,250	1,266
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	207,132	△14,240
法人税等	87,468	△3,481
四半期純利益又は四半期純損失(△)	119,664	△10,759

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	207,132	△14,240
減価償却費	142,484	116,512
退職給付引当金の増減額(△は減少)	18,088	5,628
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7,226	7,286
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△272	△482
賞与引当金の増減額(△は減少)	△91,300	△90,074
受取利息及び受取配当金	△15,033	△13,912
支払利息	8,478	8,165
為替差損益(△は益)	4,707	44
投資有価証券売却損益(△は益)	△2,677	△2,376
投資有価証券評価損益(△は益)	3,721	△5,315
固定資産除売却損益(△は益)	7,869	276
会員権評価損	—	990
売上債権の増減額(△は増加)	254,280	313,818
たな卸資産の増減額(△は増加)	△114,766	△2,759
仕入債務の増減額(△は減少)	△130,223	△140,578
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,208	25
その他の資産の増減額(△は増加)	△12,546	△3,341
その他の負債の増減額(△は減少)	2,562	31,671
その他	2,865	5,136
小計	295,806	216,475
利息及び配当金の受取額	14,835	13,962
利息の支払額	△7,810	△7,821
法人税等の還付額	—	5,085
法人税等の支払額	△240,205	△54,849
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,626	172,851
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△19,000	△9,000
定期預金の払戻による収入	10,000	—
有形固定資産の取得による支出	△223,920	△57,511
有形固定資産の除却による支出	△4,250	—
無形固定資産の取得による支出	△10,307	△33,625
投資有価証券の取得による支出	△103,589	△148,020
投資有価証券の売却による収入	36,415	49,036
出資金の回収による収入	50	—
貸付けによる支出	△2,000	—
貸付金の回収による収入	1,786	1,803
投資活動によるキャッシュ・フロー	△314,814	△197,318

(単位: 千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	780,000	520,000
短期借入金の返済による支出	△653,500	△456,000
長期借入れによる収入	390,000	130,000
長期借入金の返済による支出	△270,000	△175,000
自己株式の取得による支出	△21	—
配当金の支払額	△92,435	△93,019
財務活動によるキャッシュ・フロー	154,043	△74,019
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,707	△44
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△102,852	△98,529
現金及び現金同等物の期首残高	587,867	709,461
現金及び現金同等物の四半期末残高	485,015	610,932

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。